

大阪府阪南市 現地訪問 報告書

1. 訪問先:大阪府阪南市
2. 訪問日:令和7年1月30日(木)12:00~16:00
3. 訪問者:自治体SDGs推進評価・調査検討会 秋山委員
内閣府地方創生推進室 小西参事官補佐、熊谷研修員、小林研修員
塩谷研修員
4. 対応者:阪南市 上甲市長、松下未来創生部長、前田シティプロモーション推進課長、石橋総括主事、中井総括主事、甲斐主事
(株)伊藤園 原田部長、堀内課長、森本副支店長
大阪ガス(株) 清水マネージャー
(株)漁師鮮度 岩井代表取締役
(一社)ハンナンテ 山北代表理事

5. 意見交換概要:

(1)秋山委員発言要旨

【意見交換会】

- ①今回で3回目の視察だが、年々SDGsの取組が進捗している様子が伺える。
- ②共創チャレンジについて、万博終了後も地場産業への成長が見込める取組の目星は付いているのか。
⇒今後万博を通してどう発展していくのかを踏まえ、今後の更なる発展につなげていきたいと考えている。また、現在本市では共創チャレンジのみならず「はんなん・Co-ベネフィット創出ネットワーク登録制度」による公民連携の機会も増えている。今後、登録いただいている事業者・団体等と連携し、この先の阪南市の目玉となるような事業を生み出していきたい。
- ③今後はベッドタウン内の産業化が課題。万博はいい機会だと思うので、この機会を起点とした阪南市特有の事業の創出に期待する。
- ④同じように自然が豊かで、若者の人口が増えているような他自治体の取組も参考にしてみると良い。自然を活用して、現場体験型の教育やマリンスポーツなどで転入者の増加を図るのも阪南市だからこそできることだと考える。

【茶畑視察】

- ⑤最近抹茶のインバウンド需要が高く、スムージーやソフトクリームなど抹茶を使った商品も増えており、抹茶を求めて日本に来られる人も多い。加えてほうじ茶も需要がある。ゆくゆくはそういった商品開発につなげることができれば観光の一助になるのではないかな。

【西鳥取漁港視察】

- ⑥海の学校で、子ども達の環境への関わり方に変化はあるか。
⇒1年目なので、成果はまだ明確ではないが、授業後のディスカッションでは、徐々に内容がアップグレードしている。
- ⑦身近に土・木・虫などの自然環境がほとんどない首都圏で暮らしている人たちは、自然に対して抵抗を持っている。阪南市のように自然が近くにある中で生活できることはとても大切なことだと考える。

6. 訪問概要:

(1) 阪南茶園

遊休農地をお茶畑に転換することにより、グリーンカーボンを推進し、茶畑の造成や栽培、食育による連携で地域コミュニティを創出することを目的に、阪南市と伊藤園による連携事業「お茶のある暮らし」プロジェクトとして事業始動、現在(一社)ハンナンテが管理運営、伊藤園が育成指導を行う茶畑を訪問。

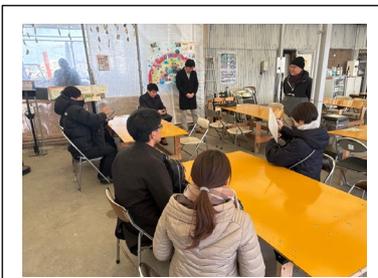


(一社)ハンナンテ、(株)伊藤園より説明

茶畑進捗状況

(2) 西鳥取漁港

カキ養殖やカキ小屋等を運営しつつ、持続可能な環境保全(アマモ場の再生等によるブルーカーボンの推進)や海洋教育活動に積極的に取り組む、西鳥取漁協と民間企業が共同出資して設立した(株)漁師鮮度を訪問。



岩井代表取締役より説明・意見交換

牡蠣の試食

以上